河 П

忠

雄 君

作 作 歌 曲

大正

赤き血潮の溢れて 青春うち慕ふ風情あ 白羽龍 の黎明のな へる若武者が ij

いるかの夢に身をひそめ

あ

あ黒潮や、

さざれ床

北俣のより 香ふ二十を愛しむ哉 の城花も散る は

吾等が寮歌を含むなり溢るる 涙 袖うちて

裸形の友も集ひしてらぎゃう とも っと 淡紅の花陰に

とうら

潮に浮べつつ

孤雲の彼方はるけくも 牧羊神も醒めつらむ 胸うちふるふ希望ありセネホ 生くる力の征矢ひけば

無量無限の陽光に 宿命の羈絆解きうてば かいのち きづなと

真白き鳥のゆく如く

の奥の流離よ

秘めにし曲をつたへずや嘆かひ濡るる月魄に 浩蕩雲にむせびけむ されど悲恋の図 鐘楼の夢やいかないゅろう ゆめ 断腸を撞かむ巨鐘 されど悲恋の図 五 れ は 0) ば

熱ある友を求めてはぬったも 郷愁空に盃もなく

乱るる酔歌に恨みあり

> 舞ひつ歌ひつ白羊の快楽の濁舟ひくく見て あこがれ楡の駅路に が 星に のさすほ とり

うち連れ汲まん誇り哉

自じゆう

泉青春を